

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	慣用句について：日本語とタイ語の対照
Author(s)	スィリワン ルアムタウィー,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集，1991：25 - 30
Issue Date	1992-03-01
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039298
Right	
Relation	



慣用句について

——日本語とタイ語の対照——

スィリワシ ルアムタウィー

はじめに

日本語を初めて勉強した時は日本語がやさしいと思った。なぜかという、私は子供の時に少し中国語を勉強したからである。中国語の漢字の書き方は難しかったが、日本語の漢字は覚えやすいと思った。けれども、三年間日本語をいろいろ勉強しているうちに日本語は他の外国語より内容的にも言葉の使い方にもなかなか理解しがたいことがたくさんあることが分かってきた。特に日本語の慣用句は、タイ語の慣用句より内容も多いし、意味も複雑でどんな時に使ったらよいか分からないことがたくさんある。それで、このレポートでは日本語とタイ語の慣用句についていくつか取り上げて日本語とタイ語の慣用句の間ではどんな所が同じかどんな所がちがうかをまとめようと思う。

I

まず、日本語とタイ語の慣用句の中から理解しやすく、意味と使い方と同じ例を取り上げて対照してみよう。

① 頭に来る

自己または他者の言動によって、それに関わる人物が感情を害して怒る。

タイ語： KRŪOT CON lŭad khŭn nāa

これは血が頭にのぼるほど非常に怒っているという意味で、血が頭にのぼるような気持ちを表す。もし、とても怒ったら、相手とけんかしたり害を与えたりするかもしれない。

② 奥歯に物がはさまる

言い方や表現が率直明確でない様子。口に出さないで、何か隠しているという含みのあることもある。

タイ語： Phūud mii lāblomkomnai

はっきり言わないで、何か隠していることがあるように思わせる意を持つ。しかし、タイ語では「あの人 Phūud mii lāblomkomnai」と言ったら、他人に対して安心できないという気持ちを与えて、奥歯に物がはさまる人は信用できなくて友人にならない方が安全だと思

(2)

われる。

③ 気が気でない

主観的に捉えたごく近く将来起こるであろう事柄に対する予感や、悪い結果を空想することによって非常に気がかりになって落ちついていられない様子。

タイ語： *krāwōn krāwāai* (不安がる)
現代になって好んで用いられるようになった俗語で、
prāsāt (落ち着かない、いらいらする) という意味は「気が気でない」と同じである。

例： 「大学の入学試験が近づいた。受験生の追い込みに親も本人も *krāwōn krāwāai* (気が気でない)」であろう。

④ 心が沈む

憂うつで暗い気持ちになること。

タイ語： *cai hōdhūu* [*cai* = 心; *hōdhūu* = 萎む]
心の底に何か心配することがあるらしい。しかし、その原因は何だと分からない感情態で明るくなくなって元気でない暗い気持ちを表す。

例： 将来のことを考えると、人生がつまらないような気がして氣力を失って心が沈んでいる。
この言葉は日常生活の中でもよく使われている。

⑤ 血も涙もない

血も涙の出る人間なみの心情が全くない、「冷酷な」の強意表現。対象を批難する感情がこめられている。

タイ語： *cai dam* (黒い心)
普通の人間は赤い心を持っているが、この人の心は黒い。人間的な心情がまったくないという意味である。また、
lād yēn (血が冷たい) という慣用句もよく使われる。 [*lād* = 血; *yēn* = 冷たい] これも、普通の人間と違って、悪魔の冷たい血のようで又さしさや人間性や思いやりがまったくない人である。この句の意味は極めて強く、思いやりがないだけでなく、残酷な人の意味も含まれる。

例： 犯罪人は生まれたばかりの赤ちゃんでもむごたらしく殺せる。赤ちゃんは何の害も与えないのに、それが殺せる

人はまったく血も涙もない人間である。

⑥ とどめをさす

それにまさる物がない。それが最高だ。

タイ語： tōy yók hai (ダレダレの判断に任せざるはず) という意味である。

例： おいしいスキヤキと言え、この店にとどめを刺すと言っていい。
また、女性のファッションではクリスマス・ディオールにとどめを刺すと思われる。
このように使われる。

⑦ 歯が浮く

軽薄な言動に接したり、口先だけの称賛を耳にしたりして不快になること。

タイ語： Fay léeo khlǎwn sǎi (聞くと吐きたくなる)
軽薄な言動・口先だけの称賛を耳にして、食べた物を腹から吐き出したいほど嫌になるように感じる。日本語では「歯が浮く」と表現するが、タイ語ではこの場合に「歯」で表現することはないようである。

例： ‘この世の何物よりもあなたを愛します’ というようなセリフが続くがほかの人には Fay léeo khlǎwn sǎi (歯が浮く) ような感じがする。

事実を誇張して本心からではない甘い言葉はそれを聞くと、ごまかされるような気がしてすぐに嫌な気持ちになる。

⑧ 歯に衣を着せない

相手に遠慮せず、自分の思っている事をはっきり言う。

タイ語： Pood mai yāy pǎak (口を止めない) という慣用語がある。つまり、相手の気持ちは全然気にしないで、自分が勝手に言いたい事を言うことである。タイ人の考え方では「歯に衣を着せない」人の頭はからっぽである。

⑨ 腑に落ちない

ある事柄に関し、不審な所がある、納得のいかない所があるという意。

(4)

タイ語： *mâi khào cai* (納得できない, 理解できない) というのと同じ意味を持つ。タイ語では *mâi khào cai* という言葉をよく使う。どういうことに対しても, 分かっていない, 理解できない時は *mâi khào cai* と答える。

例： 先生に質問をする場合は「先生, この問題は二つの説があるので, *mâi khào cai* (腑に落ちない)」と言う。

II

日本語とタイ語の慣用句の間にちがいのある場合とその使い方。次に日本語とタイ語の慣用句の違う点を3つの慣用句を例に対照してみよう。

① 青くなる

困った事態に直面した時, 恐れ×緊張×不安のために顔色が変わる様子を指す。

タイ語： *Nāa sīid* という意味は顔に血の気がない様子を示す。あるいは, *nāa sīid mwan kradaat* = 白い紙のように顔の色があせる。

なお, タイ語では, 色を利用して顔の表情と結びつけて使われる表現がいくつかある。この表現の意味は日本語と同じであるが, タイ語ではもっと広い範囲の意味と使い方がある。日本語で「青くなる」というのは困った時×恐れ×緊張×不安のために顔色が変わることを言う。しかし, タイ語で, 「青くなる」というのはこのような意味だけでなく, 病気にかかった時×おどろいた時×怒った時などにも使う。

例： あの人には友達とけんかをして言葉も出ないほどたいそう怒って顔色が青くなっている。という使い方もある。

② 血の気が引く

顔色の生き生きした血色が悲しみ・心配などのショックで失われるさま。

タイ語： *nāa sīid phwad mâi mii sīi lwad*
 [*nāa* = 顔 ; *sīid phwad* = まったく青くなる ; *mâi mii* = ない ; *sīi* = 色 ; *lwad* = 血] というのは血の色がないぐらい顔が青くなるという意味である。驚き・ひどい病い・悲しみ・心配などのためである。けれども, 日本語では「血の気が引く」と言えば, 衝撃を与える。この点はタイ語の使い方と似ていない。タイ語ではこの表現を使う時, だれだれがひどい病気で近く死ぬような

顔色をして「血の気が引く」という言い方をする。突然ショックを受けた時は「sathuan cai = 心に衝撃を受ける」という表現を使う。

③ 気をつける

(特定の事柄に対して)注意力を働かせる。

タイ語: raway (tua) 注意するという言い方がある。日本語の「気をつけて」はよく挨拶に用いられるが、タイ語の「raway (tua)」は挨拶には使用されない。一般的に言えば、タイ人は挨拶する時に「気をつけて」とは言わない。「気をつけて」とは嫌いな人や敵に対して使われる。

例: AさんがEさんとけんかして、Eさんをけったり、なぐったりした。EさんはAさんに対してとてもくやしがついていて、Aさんにしごかしをしてやろうと思っている。Aさんを殺したいという気持ちになっているが、「おまえを殺したい」とは言わない。「おまえ...気をつける」と言うのである。だから、やはりこの言葉の使い方に気をつけないと逆の事があってひどい誤解の元になるだろう。

結論

このレポートを書き終わって日本語とタイ語の慣用句の間に同じ物がいくつもあり、また似ていない所もたくさんあることが分かった。日本語の慣用句はいろいろな特徴を持っていて勉強しきれないほどである。難しい外国語はやっぱり日本語にとどめを刺すであろう。

謝意

御指導をいただいた私の指導教官である多和田真一郎先生のお教えでこのレポートは仕上がった。

心より感謝の言葉を申し上げます。

参考書

- | | | | |
|-----------------------|---------------|-----------|------|
| 白石大二編 | 『国語慣用句大辞典』 | 東京堂出版 | 1977 |
| 宮地 裕編 | 『慣用句の意味と用法』 | 明治書院 | 1982 |
| 富田竹二郎 | 『タイ日辞典』 | 天理時報社 | 1987 |
| 三省堂編修所 | 『実用ことわざ慣用句辞典』 | 三省堂 | 1988 |
| 梅棹忠夫・金田一春彦・阪倉篤義・日野原重明 | 『日本語大辞典』 | 講談社(カラー版) | 1989 |